

たも屋、台湾出店加速

うどん 19年までに50店へ

うどん店経営のたも屋(高松市)は、台湾への出店を加速し、2019年末までに50店舗の出店を目指す。15年10月に台湾1号店を出店後、既に6店舗まで拡大。現地資本とのフランチャイズ(F.C)契約で年間約10店舗のペースで増やし、都市部を中心に台湾全域で店舗網を整備する。

たも屋は13年に海外進出し、シンガポールに1号店をオープン。香川から小麦粉やだしなどを輸入して本場の味を忠実に再現するほか、トッピングの天ぷらが自由に選べるセルフ方式を

持ち込み、現地の人たちの人気を獲得。これまでにシンガポールに3店舗、インドネシアに1店舗、台湾に6店舗を出店している。台湾への出店加速は、文化が浸透している上、天

ぷら人気が高く、さらなる需要が見込めると判断した。同社とF.C契約を結ぶ飲食業のジャパン・フード・カルチャー(シンガポール、J.F.C)が、現地オーナーとさらにF.C契約を結んで出店を進める。台北がある台湾北部だけでなく、中部や南部でも拡充。現在はショッピングモールのフードコートへ入居する形態が多いが、立地条件が整えば路面店も増やす。同社は台湾の店舗網が一

定程度広がれば、台湾内に製麺工場を設け、各店へ配送できる体制を整えることも検討する。同社は「台湾は海外からの観光客も多い。店舗網を充実させることで讃岐うどんの知名度を高めたい」としている。



たも屋が台湾の百貨店内に出店した店舗。台湾嘉義市